

東北大学工学部 卒業論文

ウェブインタフェースを介した
スーパーコンピュータ利用環境に関する研究

機械知能・航空工学科 滝沢研究室

谷澤悠太

(令和6年3月)

目次

| | | |
|-------|-----------------------------|---|
| 第 1 章 | 緒論 | 1 |
| 1.1 | 背景 | 1 |
| 1.2 | 目的 | 1 |
| 1.3 | 本論文の構成 | 2 |
| 第 2 章 | 関連研究 | 3 |
| 2.1 | 緒言 | 3 |
| 2.2 | HPC システム利用方法 | 3 |
| 2.3 | OpenOndemand | 3 |
| 2.4 | 現行のウェブインタフェースにおける課題 | 3 |
| 2.5 | 結言 | 3 |
| 第 3 章 | ウェブインタフェースを介した HPC システム利用環境 | 4 |
| 3.1 | 緒言 | 4 |
| 3.2 | 提案手法の概要 | 4 |
| 3.3 | 実装 | 4 |
| 3.3.1 | 実装の概要 | 4 |
| 3.3.2 | スケジューラ抽象化機能と NQSV の連携 | 4 |
| 3.3.3 | ウェブ機能とスケジューラ抽象化機能との連携 | 4 |
| 3.4 | 結言 | 4 |
| 第 4 章 | 実装評価 | 5 |
| 4.1 | 緒言 | 5 |
| 4.2 | 評価環境 | 5 |
| 4.3 | 評価条件 | 5 |
| 4.4 | 実行時オーバヘッドの評価 | 5 |
| 4.5 | 結言 | 5 |
| 第 5 章 | 結論 | 6 |
| | 参考文献 | 7 |

図目次

表目次

コード目次

第 1 章 緒論

1.1 背景

近年，高性能計算 (High Performance Computing, HPC) システムの用途は多様化し，専門知識を持たない利用者が容易に HPC システムを利用する需要が高まっている．一般的に，コマンド操作に基づいて HPC システムを操作する利用環境や利用する HPC システムごとに異なる操作方法により，HPC を専門としない研究者は HPC システムを使いこなすために多くの学習時間を費やす必要がある．実際に Ping らによると，学問のために HPC システムを初めて利用する学生などは HPC システムのための利用環境の構築に多くの時間を費やしてしまい，本来の目的である学問のための HPC システムの利用までの多大な時間を費やしてしまうという問題が挙げられている．[1] そこで，従来のコマンド操作に基づく利用環境や，システムごとに異なる利用方法を利用者から隠蔽し，ウェブブラウザを用いて容易かつ統一的に HPC システムを利用することが可能なウェブインタフェースの研究開発が行われている．

しかし，現行のウェブインタフェースはユーザへの簡易かつ統一的な HPC 利用環境とを提供するため，ウェブインタフェースの機能の改修を行う度にウェブインタフェース本体を改修する必要がある．そのためシステムの保守性に問題があるといえる．また，HPC システムの利用者にとって，様々なジョブスケジューラを統一的に扱うということは〇〇や〇〇など，様々な分野において有用な研究であり，関心が高い分野である．

そのため，ウェブインタフェースの機能をユーザがウェブブラウザ上で HPC 利用を可能とする機能と多様なジョブスケジューラを統一的に取り扱う機能の二つの機能に分離して実装することで前述した課題点を解決し，ジョブスケジューラ統一化の要望にも応用できる機能の分離利用が可能なウェブインタフェースを考えることができる．

1.2 目的

本研究では，HPC システムの利用難度の高さや HPC システムにおけるジョブスケジューラの多様化に伴い発生し得る HPC システム利用環境に関する課題点に着目する．インタフェースをウェブ機能とスケジューラ抽象化機能に分離することで操作の簡易化や保守性などの問題を解決することを目的とする．具体的には現行のインタフェースの機能を分離し，実装を行う．実装における動作の確認を行い，提案したインタフェースを定量的に評価することで提案手法の有用性を示す．

1.3 本論文の構成

本論文は全 5 章から構成される。第 1 章では，本研究の背景と目的について述べた。第 2 章では，関連研究について説明する。第 3 章では，ウェブインタフェースを介した HPC システム利用環境について説明し，提案手法の実装を行う。第 4 章では，実装の評価結果を示し，その考察を行う。第 5 章では，本研究の結論と今後の課題を述べる。

第 2 章 関連研究

2.1 緒言

本章では関連研究について述べる．初めに一般的な HPC システムの利用方法，続いて OpenOnDemand と呼ばれるインタフェース，最後に現行のインタフェースにおける課題を述べる．

2.2 HPC システム利用方法

HPC システムとは，スーパーコンピュータやコンピュータクラスタの能力を利用して，ほかのコンピュータを遥かに凌ぐ速度で計算課題 (ジョブ) を処理し，実行するシステムを指す．このようなコンピューティング能力の集約によって，さまざまな科学分野において他の方法では対処できない大きな課題を解決できる．実際に，平均的なデスクトップコンピュータは毎秒数十億の計算を実行できる．これは，人間が複雑な計算を行うことができるスピードに比べれば，素晴らしい数字である．しかし，HPC システムは，1 秒に数千兆の計算を実行することができるため，大規模な課題に対してはより適しているといえる．

一般的に HPC システムは数種類のサーバにより構成される．ジョブを実行するためのワーカーノード，ワーカーノードを管理するためのマスターノード，ユーザ情報の管理を行うログインサーバ，実行するジョブのファイルなどを保存管理するファイルサーバなどである．ユーザは自身の PC からこれらの複数のサーバが連携された

2.3 OpenOnDemand

2.4 現行のウェブインタフェースにおける課題

2.5 結言

第 3 章 ウェブインタフェースを介した HPC システム利用 環境

3.1 緒言

3.2 提案手法の概要

3.3 実装

3.3.1 実装の概要

3.3.2 スケジューラ抽象化機能と NQSV の連携

3.3.3 ウェブ機能とスケジューラ抽象化機能との連携

3.4 結言

第 4 章 実装評価

4.1 緒言

4.2 評価環境

4.3 評価条件

4.4 実行時オーバーヘッドの評価

4.5 結言

第 5 章 結論

参考文献

- [1] Ping Luo, Benjamin Evans, Tyler Trafford, Kaylea Nelson, Thomas J. Langford, Jay Kubeck, and Andrew Sherman. Using Single Sign-On Authentication with Multiple Open OnDemand Accounts: A Solution for HPC Hosted Courses. *IEICE TRANS. INF. SYST*, No. 9, pp. 2307–2314, 9 2018.

謝辭